

# 花壇づくりワークショップ ニュースレター

Vol. 04

H28年10月26日号



## チューリップフェアに向けた ワークショップを開催しました

来年春のチューリップフェアに向けて、ワークショップ（デザイン編）を行いました。チューリップフェアは4月上旬に開催予定ですが、そのころにちょうど見頃の花壇を作るには10月～11月が植え付け時期です。花サポーター花壇では、11月に植え付けを行い、冬を越した花壇の状態を見て、来年3月にもう一度植え付けをして全体を整えます。

今回のワークショップでは、冬の状態と春の状態の両方を考えながらデザインを行ったので、難しく感じられた方が多かったようです。1年を通して花サポーター花壇をデザインするのは今回が初めての試みですが、ご家庭でガーデニングをする場合にも生かせることが沢山あるので、この機会に冬・春の花壇についての知識も身に付けましょう。

日時：平成28年10月26日（水）  
13:30～15:30

場所：馬見丘陵公園ボランティアハウス  
参加者：26人

### ◆ 当日のスケジュール ◆

- 13:15 受付
- 13:30 全体説明、フラワーフェスタの振り返り
- 13:50 現地講習
- 14:45 休憩
- 14:50 デザイン講習
- 15:30 アンケート、次回予告、終了



## フラワーフェスタ 2016 の振り返り



▲施工当日の花壇（9/21）



▲施工1か月後の花壇（10/20）

9月21日の花壇施工から本日のワークショップまでの間について、植えた植物たちがどのように成長したか、振り返りを行いました。花壇全体では、1か月で両端のピンクと赤色のゾーンが色濃くなったように見える一方、全体的に紫がだんだんと無くなっていく様子が見えました。植物を1つ1つ細かく観察すると、新たな蕾が増えていたり、虫に食われやすい植物があったり、部分的に枯れてしまったりなど、細かい変化が沢山ありました。

フラワーフェスタ2016の期間中は、平日・休日に関わらず多くの来園者に花サポーター花壇を見ていただきました。今回の花壇には全部で51種類の植物（昨年植えたもの9種類+今年新たに植えたもの42種類）もあるので、ガイドをされるのも大変だったと思います。これだけ覚えていれば、どこの花壇を見に行っても秋の花は大体分かるようになったと思います。実際に苗を植えて、実物を見るのが花の名前を覚える一番の近道です。枯れ始めた花もいくつかありますが、11月いっぱいまで花期があるものも多いので、今のうちにたくさん観察しましょう。



# 現地講習：花サポーター花壇のメンテナンス

現地講座で行った花壇の手入れについて、ご家庭でガーデニングされる際などに役立ててください。

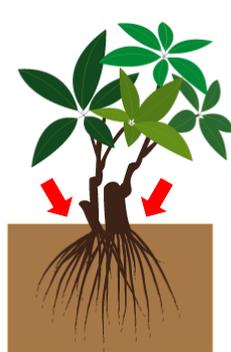
## ①植付けする際の注意

クジャクアスターを6箇所植付けた中で、1箇所だけ傷んでしまったものがありました。これの根元を見ると、株が周りの土よりも浮いてしまっていました。植付けの時にしっかりと周りに土を被せなかったか、下の土が硬かったせいで深くまで植え付けられなかったことが原因だと考えられます。

株が浮いてしまうと、地際部分の根が土に埋まらず、水をやってもそこが吸収できなくなってしまうので、水切れが起きてしまいます。苗を植付ける時には、水をやっても周りの土が流れていかないように株元をしっかりと抑えるか、株の周りに土を盛り上げて地際の根からも水が吸収できるような状態にしましょう。



▲地際の根からも水を吸えるように



▲株元が浮かないように土を抑える



▲株の周りに土を盛り上げる



▲水切れを起こしたクジャクアスター



▲株が浮いてしまっている

## ②花壇の冬支度

気温の低下にしたがって、葉が傷んだり枯れたりする宿根草が出てくるので、順次株の整理を行います。宿根草の中でも、①冬に地上部が枯れるタイプ、②株元から秋に新芽が出るタイプ、③休眠しないタイプがあります。寒さで自然に枯れて、春に新たな葉が出て自然と葉姿が整うものもありますが、どんどん巨大化するのでここでは切戻す方法を紹介します。



▲切り戻しの位置

- ①冬に地上部が枯れるタイプ：シュウメイギク、クジャクアスター 等
- ②株元から秋に新芽が出るタイプ：ガイラルディア、カワラナデシコ 等
- ③休眠しないタイプ：リシマキア、カレックス、ヤブラン 等

「株元から秋に新芽が出るタイプ」の宿根草は、新芽を残して地際で切戻します。「冬に地上部が枯れるタイプ」の場合も地際で切戻してもよいですが、どこに苗が植えられているのか分からなくなるので、苗の場所にネームプレートを立てておくと、茎を10cm程度残して切戻します。

また、寒さが苦手な植物や小さな苗を植えている場合には、防寒のためにマルチングを行います。マルチングとは、腐葉土やピートモス、バーク堆肥などを使って地面を被覆し、地温と調節を行うことを言います。雑草の抑制や降雨や灌水による土の跳ね返りを防いだり、地面の色が一色になることで花壇を美しく見せる効果もあります。マルチング材には、ワラやビニール、ウッドチップなど様々な種類があります。



▲マルチング（ウッドチップ）



# デザイン講習：冬→春の花壇デザイン

今回のデザイン講習は、冬と春に2回施工を行うことを見越して、変化する花壇のデザインを行いました。今までの秋花壇のデザインとは異なり、植替えを考えながらのデザインだったので、苦戦している方が多かったです。実際の花壇は植え付けて終わりではなく、1年を通して楽しむことが多いので、ここでは花壇を更新しながらデザインする方法について紹介します。

## ①ローテーションと施工時期の確認

植物は常緑のもの、落葉するもの、季節によって花の咲く時期（花期）があります。施工のタイミングは、枯れたものを随時更新できる場合は常に補植するのが理想ですが、維持し続けるのはかなり大変なので、年2～4回のペースでローテーションを行いのがよいでしょう。（花サポーター花壇はイベントに合わせたスケジュールなので9月、11月、3月に施工を行います）

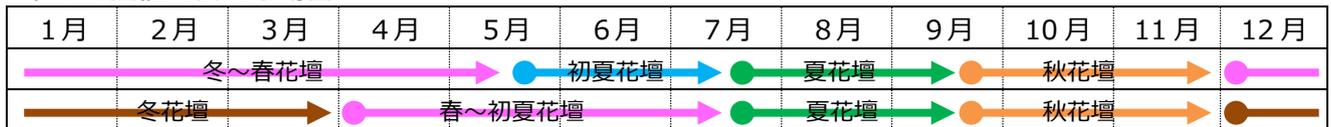
年に2回植え替える場合



年に3回植え替える場合



年に4回植え替える場合



## ②デザインの骨格を決める

季節ごとの花壇で、どんな雰囲気の花壇にしたいか形や色を決めます。花サポーター花壇では、花壇の中に配置するコンテナを均等にする形にして、冬花壇は暖色系の色に統一、春花壇はパステル調の色合いのボーダー花壇にしました。

## ③植物選びと配置

冬と春の植物を両方一辺に考えるのは難しいので、冬花壇と春花壇を別々に考えてみましょう。右図の緑には現況で残す植物、青→ピンク→オレンジ→黄の順に段々背の低いものを配置します。冬花壇の色は暖色系、春花壇の色はパステル調にまとめます。

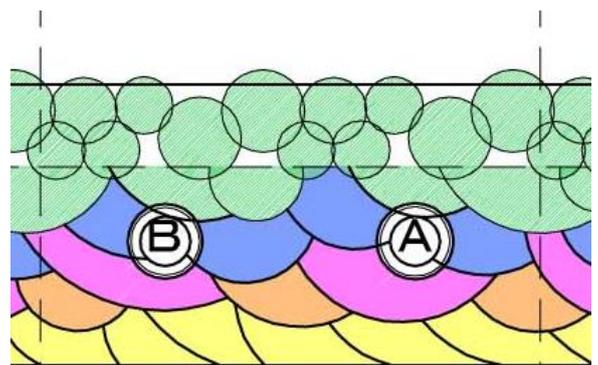
冬と春の植物を重ね合わせて、

1. 色のテーマが合わない部分
2. 成長してバランスが悪くなる部分
3. 冬で花期が終わる部分

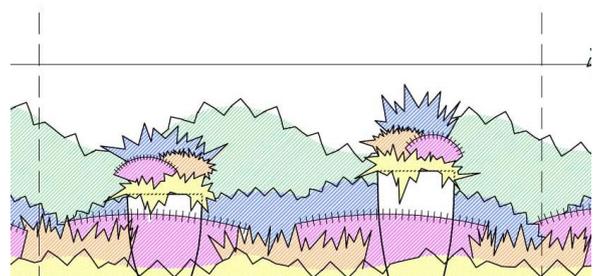
を春に植え替え、残りの部分はそのまま植え続ける部分にします。また作業のしやすさを考え、冬～春花壇を通して植え替えない植物は後方に、植え替える植物は前方に配置を調整します。

パステル調のように複数の色を組み合わせるのは難しいですが、ゴツとして、薄い色を広い面、濃い色をアクセントとして部分的に配置するとまとまりやすいです。（ニュースレターVol.2 参照）

冬の間は休眠期の植物が多いので、花壇全体を花でいっぱいにすることよりも、春に向けての下準備だと考えましょう。



▲平面イメージ



▲立面イメージ



## 花修景に関するQ&A（10/26 講義アンケートの回答）

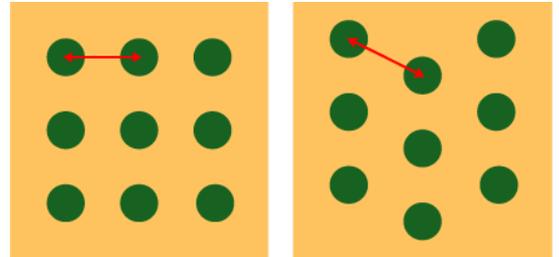
### Q. 花壇の風通しを良くするにはどうしたらいいの？

秋に施工した花サポーター花壇のように、イベントに合わせた密度の高い植え方をすると、風通しが悪くなり、蒸れて病気になりやすくなったり、カビが発生しやすくなります。また、虫も発生しやすくなります。これらを防ぐために風通しの良い環境を整えます。

#### ①密集して植えない

植え付けるときに株間を広めにとります。同じ数を植える場合も、前後が重ならないように配置します。また、植える場所が風通しの良い場所か塀や壁で遮蔽されているかも事前に確認しましょう。

風が通りやすいように、苗を前屈みに植えたり高低差をつける等、植え方自体を工夫する方法もあります。



▲ 植栽パターン例（平行、千鳥）

#### ②茎や枝を間伐する

茎や枝の密度を低くすることで、風通しを良くします。枝の切る場合も茎を切る場合も、切る位置は枝（葉）の分かれている直上です。（ニュースレターVol.2 参照）また、こまめに花がらを摘んでカビが発生しにくい環境を作りましょう。

同じ苗の枝ばかり切らずに、周りの苗とのバランスを確認しながら作業しましょう。

### Q. 熱帯植物を冬越しさせるにはどうしたらいいの？

植物には、寒さに強い植物と弱い植物があります。寒さに強い植物を「耐寒性植物」、夏の暑さに植物を「耐暑性植物」といいます。

耐寒性植物：屋外でも冬の寒さに耐えて越冬する植物

半耐寒性植物：霜よけなどの対策をすれば、屋外で越冬する植物

非耐寒性植物：屋外で越冬できない植物

ハイビスカスなどの熱帯植物は熱帯地域で育成する植物で、奈良県で冬を越すのは難しい「非耐寒性植物」と考えてください。熱帯植物以外でも、今回花サポーター花壇に植えたゴシキトウガラシやパープルファウンテングラスのように、本来は宿根草でも非耐寒性植物のため1年草扱いする植物は沢山あります。非耐寒性植物は1年草とみなして、次の年は新たな苗を購入の方が簡単ですが、ここでは非耐寒性植物が冬越しする方法について紹介します。

#### ①室内（軒下）に移動させる

冬の間は室内（10℃以上）の暖かい環境に移動させます。取り込む時期は10～11月です。霜が当たらないようであれば、軒下でも構いません。株が大きい場合は、この時期に剪定もします。苗を周りの土ごと掘り起し、コンテナに植え替えます。室内に入れっぱなしにすると湿気がこもりやすいので、空気が淀まないに換気をし、天気の良い日は日光に当てましょう。水やりは控え気味にします。朝の最低気温が10℃以上（霜が降らない）になる4～5月には外に出しても大丈夫です。

#### ②マルチング+霜よけをする

どうしても屋外で冬越しをさせたい場合は、株元にマルチングをし、霜にあたらないようにビニールシートや不織布などで囲みましょう。日中はビニールシートを外して日光に当てましょう。

#### ③球根類は掘り起こす

カンナなどの球根類（春植え球根）は、花期が終わったら地上部を切り離して球根を保存します。朝の最低気温が10℃以上（霜が降らない）になる4～5月に植え付けます。ジンジャー、カンナ、カラー、球根ペゴニア、アマリリス、ダリアなどの球根は、極端な乾燥は避け、パーミキュライトやオガクズに保存（3～5℃）しましょう。



▲ 簡易ビニールハウス（グリーンキーパードーム型/マルハチ産業）